

ZEN

全道展交流紙
2025.02
No.64

第 78 回全道展開催を終えて

総合審査委員長・絵画部門審査委員長 渡辺貞之

・余命半年といわれながら、夜中こっそり病院から抜けだして描いた作品。入選の通知が届いた時、涙ぐんで手を合わせていた……そして3週間後に亡くなった。

・92才でとうとう施設に入ることになり、もう出品する体力もなくなった。これが最後と8号の絵一枚を応募してきた。当然それは落選してしまった。そのいきさつを手紙すると、「先生たちが私の絵を見て下さっただけで、もう本望です」という返事をいただいた。

全道展にそこまでして応募してくれる魅力とは一体、何なのでしょう。入選作品を選び、受賞作品を決め、自身が芸術至上主義という幻惑に目が奪われ、多くの応募者のそうした思いを私たち選者は忘れてはいないでしょうか。

今年の審査では、それぞれの部門に若い人の意欲を強く感じました。協会賞を同じ人に続けて2度選ぶべきか様々な意見がありましたが、やはり作品の質、作家の将来性などを考え、続けて受賞にしました。さらに若い人の新しいジャンルに挑戦した作品が多く評価されました。それが例え未完成であっても、たえず新しいことに挑戦していくという態度は大切なことです。全道展は作品の出来映えだけでなく、将来に向けての有望な作家を育てるのだという精神は今も生き続けているのです。

しかし反面、私たち審査する会員の審美眼が時代に追いつけていけるのか。写実と抽象、メランコリーと陽気、怒りと平和、増悪と愛情、皮肉と抒情、生と死、稚拙と技巧等々。相克する様々な内容を秘めた作品が次々と目の前を通り過ぎる。それに対し瞬時にその善し悪しの判断をする。この目まぐるしく変化していく現代の芸術に審査する者の揺るぎない審美眼が問われるのです。



第78回全道展会場風景（札幌市民ギャラリー） 2024年6月12日(水)～6月23日(日)

第78回全道展（2024年） 搬入・審査風景



搬入風景（札幌市民ギャラリー） 6月4日（火）



総会（札幌市民ギャラリー） 6月5日（水）



審査風景（絵画） 6月5日（水）



審査風景（工芸） 6月5日（水）



審査風景（版画） 6月5日（水）



審査風景（彫刻） 6月5日（水）

第78回全道展審査を終えて

澁谷 美求（版画部門委員長）



審査委員長（版画部門）

コロナ禍が明け活気が戻ってき来た6月の全道展。どんな作品が待っているか緊張感と楽しみがある。高崎勝司さんは長年独自の抽象表現に取り組んでいる。物質感、重量感を感じる力作で新会員に推挙された。会友賞は射水美栄子さん木版画の大作で今後の活躍が楽しみな作家。佳作賞には野間千恵さん、松下由紀子さん、銅版画の線描を活かした現代的な作品で画面いっぱいの構成が活きている。今後更に成熟した表現が期待される。奨励賞の竹内健晃さんは安定した表現で、自然の中の民家の雰囲気が出ている。同じく奨励賞の渡邊雅子さんは装飾的な草花の中の子供が愛らしい。U23賞には倉橋由貴さん、シルクスクリーンの特徴を活かした作品で今後が楽しみ。新会友は久保田道子さん、安心できる作品である。それぞれの個性を大切に今後に向かって欲しい。全体的には真摯に取り組んでいる作品が多く好感が持てる。エネルギーに満ちた作品を期待している。

川名 義美（彫刻部門委員長）



審査委員長（彫刻部門）

今年度は比較的大きな作品が多く全体的にレベルが高かった。沖縄在住の野原佳音さんは単純になりがちなフォルムを緊張感のあるバランスに仕上げ奨励賞を受賞した。同じく奨励賞の藤野綾音さんは16歳という若さで、複雑な構造の人体半身像の制作で評価された。菅原清弘さんの作品は以前に比べ安定感と質の向上が見られ佳作賞を受賞。釧路の石橋周子さんは作品を切り分けて再構成する手法を長きに渡り行い新会友となった。内藤満美さんは堅実な具象彫刻の制作を以前より続けられてきた方で、昨年会友賞を受賞し、今年見事会員推挙となった。もう一人新会員となった春藤聡子さんは独特の感性で、彫刻部として早くから期待の方であった。彫刻というよりは立体造形といった方がわかりやすいかもしれない。様々なマテリアルを駆使し、独特の世界観を私たちに提示してくれる。

石山 和雄（工芸部門委員長）



審査委員長（工芸部門）

会員全員の参加により、一つ一つの作品を丁寧に、かつ掘り下げて審査することができた。一般17名の方から応募があり、入賞3名、入選7名、選外7名の結果となった。又、新会員1名が推挙、新会友1名が推薦され、今後、仲間として活躍する事を期待したい。新会員の木俣さんは、滝が落下する様を強烈な色彩で表現し、かつ織技術の高い作品に仕上げた。会友賞の小杉さんは、漆を素材として画面の中央に向って神秘的な空間を表現して格調高い作品に仕上げた。新会友の陳さんは、ガラスの柔軟性を最大に発揮した作品に仕上げた。これからの発展を期待する。奨励賞の早川さんは、赤々と燃える陽光と背景の暗闇を対比させた力強い作品とした。奨励賞の本田さんは、細密な彩色と構成の巧みさで存在感のある作品とした。奨励賞の香西さんは、面白い構成の作品に仕上げている。今後に期待したい。

第78回全道展表彰式 2024年6月15日(土) 13時から



川口浩全道展事務局長の挨拶 北海道新聞社7階特別会議室にて

新会員の皆さん(9名)



大石慶子(絵画) 加藤三枝子(絵画) 佐々木ゆか(絵画) 高崎勝司(版画) 木俣猛(工芸)
岳上恵子(絵画) 小島英一(絵画) 豊嶋章子(絵画) 内藤満美(彫刻)
※欠席1名 春藤聡子(彫刻)



懇親パーティー(18時から) 祝辞・乾杯を本郷新札幌彫刻美術館館長 吉崎元章様よりいただく
札幌市民ギャラリーにて

作品講評会

2024年6月15日(土) 15時～16時



左から陳俞沁新会友、保坂順一会友、阿部綾子会員（工芸）



高崎幸子会員(版画)による作品講評 水野房江会友(左)



川橋雪弘会友(左)の「サカイ」を講評する小野寺紀子会員（彫刻）



左から浅川茂会員、松木真知子会員（絵画）による作品講評

ギャラリーツアー

2024年6月16日(日) 14時～14時40分



全道展事業部長西村徳清会員（絵画）の解説によるギャラリーツアー 札幌市民ギャラリーにて

昨年までギャリートークを開催していたが、今年は西村徳清会員が参加者に絵画、版画、彫刻、工芸の作品の前で分かりやすく解説した。参加者からも熱心な質問があり、作品の魅力や作家の制作に向かう心構えなどを深く感じることができた。

全道美術協会賞・北海道美術館協力会賞・新会友（絵画部門）

大野 海玖（函館市）



受賞作品「静寂な眠りの中で」 182 × 454



大野海玖さんの挨拶

●受賞の喜び●

この度は、昨年に引き続き全道美術協会賞、北海道美術館協力会賞を賜り、大変光栄です。長い歴史がある「全道美術協会展」という大きな舞台で「2年連続 史上初」を成し遂げられた事を大変嬉しく思います。

昨年までは学生として、生活の中心は筆を握る時間でしたが、今年度より美術教諭として働き始め、多忙な日々を過ごしています。そんな中でも今回の全道展に出品ができたのは、日頃から応援を下さる方々、これまでご指導いただいた多くの先生方の温かいサポート、そして何より、評価をして下さった、選考委員の方々のおかげです。深く感謝いたします。

今回の作品について、モチーフは「鯨という生命」と「魚雷という破壊」です。生命と破壊。正反対な存在意義でも、人間ひとりでは到底逆らうこともできないであろう大きな力であるという共通点に思えました。どちらも「眠る間」はその静寂な時間が平和であることを願います。平和な時間はいつか覚める。安らぎと不安。静寂な眠りはいつまで続いてくれるのだろうかという意味がこめられています。

美術教諭として、生きていくうえで明確な解答のない問題に向き合う方法や個性を生かす表現を、知識や専門性を活かし芸術を通して伝えていきたいと思います。そのために、まずは私自身が第一線で表現を続けていきたいです。

北海道新聞社賞（絵画部門）

森山 美桜（札幌市）



受賞作品「私の性格は母に似ている」 F150

●受賞の喜び●

この度は、全道展で北海道新聞社賞をいただき、大変嬉しく思います。

今回の作品は、孤独死であるセルフ・ネグレクトをテーマにした作品です。

超少子高齢化社会であるこの日本という現下で、高齢者を描くにあたり、全ての人に共通している「老い」をテーマにすることによって、今生きていることを実感してもらい、死や高齢者に対して考える機会を与えることで鑑賞者の意識が変わると考えました。

また、今回は家族に着目し、母親が孤独な状態で人寂しさから手を上げるというSOSのような行為を薄々と感じながらも様子を見に行くことまではしないという惰性を描いています。

私は制作を続けることで常に新たな問題意識、または美の感性を自分の中で更新し続ける材料になると考えております。

全道展苫小牧地区展報告 「熱のこもった作品に出逢うのが楽しみ—入場者の声」

苫小牧地区事務局 菊地 章子

苫小牧地区展 2024年5月14日(火)～5月19日(日) 市民活動センター



お陰様で好評のうちに終了いたしました。今年度は5月から6月にかけて苫小牧地区展が道展、全道展、新道展の順で開催され、各地区展の特質も見え興味深いものがありました。今年度の苫小牧地区展の特徴として高校生も公募に参加出来る事を説明しながらポスター配りをし、若き愛好家を求めてみました。また、今年度の活動報告としては出品作品23点(会員7名、会友3名、一般出品者10名)、種別(油彩、水彩、彫刻、工芸)、入場者580名でした。

入場された方の声に「3団体の地区展を連続して見るのができてとてもよかった。毎年意欲作大作に出逢うのが楽しみ、来年も期待しています」がありました。今年度の苫小牧地区展では初出品の方が3名仲間入りし賑わっています。

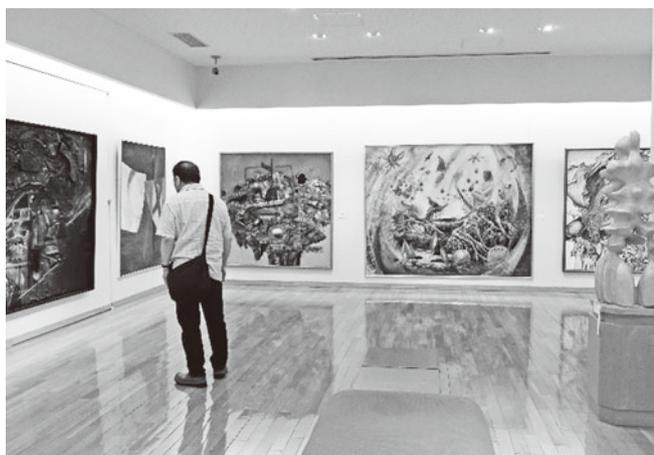


全道展旭川地区展報告 「4年ぶりの懇親会」

旭川地区事務局 斎藤 矢寸子

旭川支部小品展 2024年7月8日(月)～7月15日(月) ジュンク堂ギャラリー(旭川)

旭川地区展 2024年7月3日(水)～7月15日(月) 深川市アートホール東洲館



78回展の旭川地区全道展出品者は、昨年同様、会員・会友・一般併せて33名となった。主な受賞者は絵画会友賞・宮下淳、新会友・会田栄喜、彫刻佳作賞・菅原清弘。東洲館では「入、落、」の別なく出品者全員の作品が並び、小品展は27名の出品となった。

4年ぶりに懇親会を開催した。都合のつかない方を除いて15名の参加者があった。久しぶりの再会で懐かしい顔ぶれや初対面の人達に自分の制作に関する事など、自己紹介を兼ね語ってもらった。渡辺貞之会員の軽妙なトークで会場が大いに和みつつ、各々作品に対する忌憚のない意見が飛び交った。来年の全道展に向けての意欲が高まる会となった。

全道展十勝地区展報告 「複数展示の効果」

十勝地区事務局 今西 直人



第26回全道展十勝地区展が7月25日から30日まで帯広市民ギャラリーで開催された。今回は本展作品を含めた大作2点と小品を加え、より人間味のある地区展を訴えた。ひとつの方法としてキャプションにコメントを入れた。この作品に至る経緯、思いに作家の人生観をもうつしだす一面が垣間見られた。じっくり絵を観る、コメントをのぞき込む、また絵にもどる。そんな様子が時々見られた。

今年の初入選の佐竹澄子（絵画）、大村瑞穂（絵画）の二人を仲間に迎えメンバー18人の45点は548人の来場者に何らかのメッセージを与えられたのではと思う。

この春亡くなられた渡邊禎祥会員の遺作コーナーも設け、皆が最後の別れを惜しんだ。渡邊ブルーで描かれた大作「追憶」のゴンドラは全道展十勝地区展の更なる発展を祈っての指針と見た。



全道展室蘭地区展報告 「5年ぶりの交流懇親会と室蘭地区事務局の交代」

室蘭地区事務局 矢元 政行

室蘭地区展 2024年7月31日(水)～8月4日(日) 室蘭市民美術館オープンスペース



7月31日(水)～8月4日(日)の5日間、室蘭市民美術館オープンスペースで全道展室蘭地区作家展を開催した。出品者は18名で昨年と同じ、入場者は229人と昨年より40人ほど増加し、また昨年逝去された会員の佐々木俊二氏の作品も遺作展示することができた。

全道展78回展は、岳上恵子さんが新会員、井関悦子さんが新会友、増田尚美さんが初出品初入選と快挙に沸いた。そのためか、地区展の会場も明るい雰囲気か漂っていた。前日の作品搬入と会場展示の後、出品者全員による1時間ほどのギャラリートークで、作品について自由に語り合うことができ、それぞれ自分の作品についての認識を深めることができた。今回は、地区展初日に、東室蘭の居酒屋「ふなや」において出品者15名で交流懇親会を行った。5年ぶりでお酒を飲みながら近況や作品のこと、今後の地区展について話し親睦を深めることができたのが大変良かった。

最後に、私と佐藤光雄会員でやってきた室蘭地区事務局について、次年度から新事務局長に山田一夫会員、次長に鈴木強会員、相談役に福井路可会員に交代することになりました。長い間、室蘭地区の皆さんをはじめ多くの人に助けていただき、何とか室蘭地区の展覧会等の活動を維持できたことに深く感謝します。

全道展道東地区展報告 「今年も地区展は釧路と根室の会場で開催！」

釧路、根室地区事務局 宇佐美 修一

釧路地区展 2024年7月31日(水)～8月4日(日) 釧路市生涯学習センター

根室地区展 2024年8月6日(火)～8月11日(日) 根室市総合文化会館多目的ホール



若い世代が台頭してきている第78回全道展が終わり、地区展の開催も釧路、根室の両展が無事終了した事が何よりです。今年の地区展では、釧路、絵画部門から新会員加藤三枝子さん、彫刻部門から新会友石橋周子さん、根室、工芸部門から初出品で奨励賞の本田操さんの躍進が見られたことは、地区展の皆が歓迎するところです。又、根室地区から高校3年生の本村香穂さんが2年連続入選したことは、これから来季の全道展に向かう学生に良い傾向でもあります。来年の全道展に向けて新会員、加藤三枝子さん、新会友、石橋周子さん、工芸部門本田操さん、更なる躍進と、後に続く会友、一般の方々の奮起を期待しております。わたくし自身も、学生と共に自由に更なる作品制作と一緒に研鑽あるのみです。



全道展函館地区展報告 「久しぶりの受賞作品」

函館地区会事務局 輪島 進一

函館地区展 2024年8月8日(木)～8月14日(水) 函館市函館芸術ホール 入場者数 557名



今年から8月開催となりました。絵画部30名、彫刻部4名、版画部1名の計35名の出品でした。受賞は2名、奨励賞の石畑靖司さんと全道美術協会賞と北海道美術館協力会賞のダブル受賞した大野海玖さんでした。石畑さんは20年近く出品し続け、念願の受賞。直線を意識した構成でより抽象性、象徴性の深まりを見せています。また大野さんは昨年も協会賞を受賞し2年連続最高賞で、全道展創立以来始めて！さらに2年前は佳作賞。3年連続受賞はすごいですね。今年札幌大谷大学を卒業され、出身地の函館に戻り、教員生活をしながらの制作活動。若いながら、この道南、否全道展の牽引が期待されます。

昨年は夜に懇親会を開催しましたが、今年は合評会への多くの参加を期待し、趣向変えて会場へ数分というレストランで豪華な昼食会。絵の話題で盛り上がり、その後の合評会へは多くの参加者がありました。5、6人ずつのグループに分け会場を回り、じっくり自作について語ったり、批評し合ったりという形式で個々人にとっていつもより、かなり有意義な時間となったようです。

「四つの展開 1969—2024」

田崎謙一展

絵は作者の精神の内と外の精緻なバランスの上に築かれる。彼はそれを様々なテーマのもとに、線と形と色彩の関係からメロディとリズムとハーモニーの豊かな関係を壮大な画面で抽出している。

55年の画業……。彼のような生き様の全貌をさらけ出す画家はもういるだろうか。生への苦悩あるいは賛歌。命の誕生とその行方。そして一転して人間不在の現代社会への告発。時にはコンピューターという機器から生み出したイメージ。執拗にキャンバスや額を手作りにするこだわり。それは絶えず自分の生きている立ち位置を模索している姿に違いない。これが自分の最後の個展と言う。しかしその壮大な仕事ぶりは「最後とは、最初なのだろうなあ」と私は思う。

(渡辺貞之記) 2024,5,2



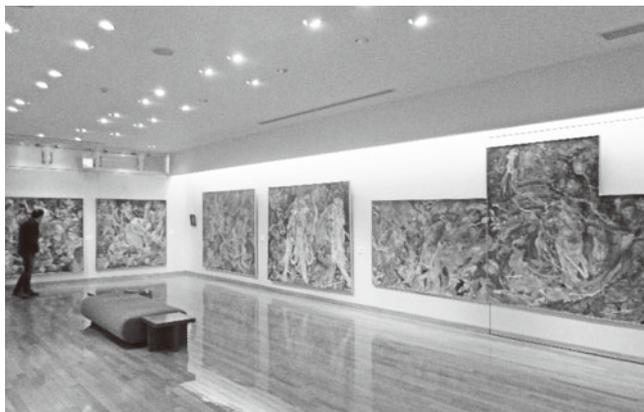
笠原一記氏撮影



田崎謙一展 2024年5月2日～6月2日 ギャラリー大通美術館 2024年5月31日川本ヤスヒロ撮影



2024年9月1日～9月30日 絵画ホール・松島正幸記念展
2024年9月1日川本ヤスヒロ撮影



2024年10月2日～10月14日 アートホール東洲館
2024年10月13日川本ヤスヒロ撮影

「黄色いテーブル（なかまたち）」を追求

訪問・撮影 川本ヤスヒロ

岳上恵子会員（絵画部門）は1941年室蘭市生まれ。

全道展初入選は、1988年第43回展「大道芸人（公演時間15分）」F80号・油彩で、その後、2013年第68回全道展「黄色いテーブル（なかまたち）」F50号・油彩で入選するまで全道展にはしばらく出品していない。

絵を描き始めたのは33歳頃、子供が小学校に入学したのを機に、室蘭在住の画家、故・全道展会員の熊谷善正先生にデッサンの基礎や油彩画を教わり描くようになった。

好きな画家は、アンリー・マチスや故・全道展会員の砂田友治先生で、二人の作品に魅力を感じ影響を受けた。

2000年第74回全道展「黄色いテーブル（なかまたち）」F130号・油彩で奨励賞を受賞、2022年第76回全道展「黄色いテーブル（なかまたち）」S100号・油彩で佳作賞を受賞し、会友に推薦された。

第68回全道展に出品以来、追求してきた「黄色いテーブル（なかまたち）」を中心に、今回、室蘭市民美術館の企画で作品展を開催することになった（会期2024年4月3日～6月9日）。会場には、130号の大作をはじめ、油彩29点、銅版画4点が展示されている。初期の作品は1980年「小樽運河」F50号、1984年「うちの音楽家」F50号（二科展入選作品）なども魅力的な作品である。現在追求中の「黄色いテーブル（なかまたち）」は平面を意識した画面構成で、作者の好きな果物（特に梨は全作品に登場している）や花などが配置されている。そして、好きな色は、イエローとパーミリオン。イエローの色面が多く、パーミリオンで画面を引き締めている。作品を描く時は、常に楽しんで制作するという。「仲間たちとそれぞれの空間」をどのように表現していこうか、バランスをいかにして絵画化していくかを制作を通して考えながら描いていくところに楽しさと喜びを感じる作者である。

これからも、「制作する楽しさ」を感じながら生きる力や喜びを表現されていくことと思う。



第78回全道展会員推挙作品前で 2024年6月15日撮影



岳上恵子作品展（室蘭市民美術館企画展）会場風景 2024年4月23日撮影

宮地明人展「それぞれの情景」

岩見沢市絵画ホール・松島正幸記念館企画展 2023年12月4日～2024年1月13日



宮地会員は同絵画ホールで、2018年に第1回（企画展）を開催しているため今回が2度目である。出品作品は大小合わせて40点（内、大作は14点）。出品作の2003年から2010年までの4点は色を使っているが、2012年から色彩がかなり抑えられていると同時に、「そこに在ること」が主要なテーマになる。

宮地作品の魅力は写実力とその画肌にある。磨き抜かれた堅牢な画肌に浮かび上がる人物は細密で憂いを帯びている…ように見える。その憂いは懐かしくも遠い過去のセピア色の写真に似ている。彼が描いているその瞬間は現実でも、完成した瞬間から過去の思い出となる。宮地作品は時間を遡行する不思議な魅力に充ちている。（注：宮地は見えるものだけでなく、「音や気配」をもテーマとする試みに注目したい）

（梅津薫記）2024,1,7

渡辺貞之出版記念展 「わんちゃん先生 子どもがくれた宝もの」

茶廊法邑 2024年1月6日～1月17日



渡辺貞之会員は37年間小学校の教員を務め、子どもたちと過ごしてきた体験を文章にしてきた。それらの文章をもとに20年にわたり北空知新聞に載せたエッセイの原稿を、茶廊法邑の法邑美智子さんがまとめ今回出版することになった。エッセイは子どもたちを育てた教師でなく、育てられた教師だったという思いを渡辺会員は書いたという。文章には子どもたちをテーマに描いた油彩画やデッサンが挿入されている。内容をまとめた副題とカットも魅力的であった。会場には、F130号「3人ごっこ」の大作をはじめ、子どもを描いた小品23点、デッサン21点が展示されていた。

（川本ヤスヒロ記）2024,1,10

第90回記念独立展 北海道展

北海道立近代美術館 2024年3月23日～3月31日



6年ぶりの北海道巡回展である。美術界の第一線に立つ代表的な会員作品と受賞作品、活発な展開をみせる道内在住者の作品をあわせ、200号クラスの大作を中心に77点を展観。全道展関係の出品者は、木村富秋独立展会員をはじめ、木村由紀子、高橋正敏、波田浩司、宮地明人、輪島進一会員が200号の大作を出品、受賞者は、渡辺貞之（独立賞）、佐々木ゆか（協会賞）、佐藤仁敬（協会賞）、遠山隆義（佳作賞）、村本千洲子（佳作賞）で見応えのある展覧会であった。

（川本ヤスヒロ記）2024,3,23

春陽会 100 回記念 北海道研究会版画部展 「それぞれの情景」

大丸藤井セントラル 春陽会北海道研究会版画部 10 周年 2024 年 3 月 19 日～3 月 24 日



春陽会 100 回記念展には、全道展から北海道版画部主任の大井戸百合子会員をはじめ、全道展の版画部門の澁谷美玖、福岡幸一会員、射水美栄子、剣持知威、佐々木千晶会友が出品している。

エッチングや木版画など独自の技法を生かした作品が魅力的であった。

(川本ヤスヒロ記) 2024,3,24

銅版画ふたり展

大丸藤井セントラル 2024 年 4 月 2 日～7 日



左 2 点 坂みち代会員、右 2 点 佐藤麗子会員の作品

全道展版画部門坂みち代、佐藤麗子会員によるエッチングのふたり展。それぞれ 15～16 点の作品を展示。坂会員は「光と影 それぞれが 微妙なバランスを保ちながら 存在しているように思います」、佐藤会員は「自然の声を楽しんでいます」との表現にふさわしく、黒の世界から光と自然を感じさせてくれる作品に触れることができた。

(川本ヤスヒロ記) 2024,4,3

浅川茂展 遠い日々の心象 VI 2000—2022 年

札幌市資料館 2024 年 7 月 30 日～8 月 4 日

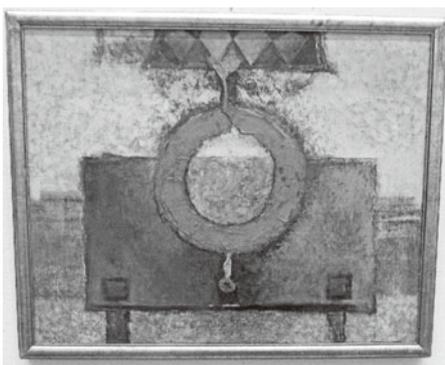


全道展絵画部門浅川茂会員の札幌での個展は 4 年ぶりで油彩画 20 点が展示されていた。「地の森」「過ぎ行く風景」「沈黙する風景」など抽象的な画面構成の中に自然が感じられ、そして、そこにしっかりと作者の存在感や精神性がみられ、深い空間も漂っていた。

(川本ヤスヒロ記) 2024,8,1

第 48 回北海道平和美術展

札幌市民ギャラリー 2024 年 7 月 31 日～8 月 4 日



北海道平和美術展は、平和と民主主義を守る北海道の美術家・美術愛好家なら誰でも出品できる展覧会である。全道展版画部門の重岡静世、福岡幸一各会員、彫刻部門の田中隆行、水口司各会員の作品の他、第 78 回全道展に入選した奥井登代さん（油彩）、室谷孝枝さん（水彩）などの作品が出品されていた。また、2023 年 10 月に逝去された絵画部門の佐々木俊二会員（左）、彫刻部門の元会員二部黎さんの遺作（右）も展示されていた。

(川本ヤスヒロ記) 2024,8,1

神田一明・比呂子 二人展

福原記念美術館 2024年8月1日～9月15日



「猫のいる窓辺」・油彩 神田一明 「無題」・彫刻 神田比呂子

2人展会場風景

長年、全道展に貢献された神田一明会員と夫人の比呂子会員が今年の3月と4月に逝去された。二人展では、神田一明さん（1934～2024）の油彩画19点と比呂子さん（1932～2024）の彫刻1点とパステル画2点が展示されていた。懐かしい作品もあり、お二人の全道展の思い出が蘇ってきた。（川本ヤスヒロ記）2024,8,12

コレクションが出会う道東 神田日勝記念美術館×釧路市立美術館（所蔵作品交換展）

神田日勝記念美術館 2024年6月26日～9月16日



本展は釧路市立美術館との所蔵交換展で、全道展関係では上野山清貢創立会員（1889～1960）、国松登創立会員（1907～94）、小川原脩創立会員（1911～2002）の油彩画をはじめ、国井澄会員（1917～71）、小野州一会員（1927～2000）、今年3月に逝去された渡邊禎祥会員（1934～2024）の油彩画が展示されていた。また、大本靖会員（1926～2014）の木版画があり、会場入り口の大パネルに紹介されている神田日勝（1937～70）の「馬（絶筆・未完）」と柳悟元会員（1938～2021）の「烈聖牛」の絵があった。今年も全道展に出品し個展やグループ展でも活躍している羽山雅愉会員の「曙光」、120号、油彩作品は魅力的であった。（川本ヤスヒロ記）2024,8,12

石原佑一 油絵展

函館芸術ホール 2024年9月13日～9月16日



「人間」をテーマした個展で、このような大きな個展を開催するのは初めてであるという。150号、130号の大作を含む24点の作品には命の大きさが描かれている。どの作品を見ても絵の具をこれでもかというほど塗りこめていき、画家のとことん追求する熱意がみられる。作品からは作者の魂が滲み出ている。出品作は行動展会員（2007～19）退会までの作品を並べる。行動展の大作は運送関係で本展に出品できなかったという。行動展会員にポストカード100枚配布。そこで、会場にポストカードコーナーと評（美術の窓）を合わせて展示したところ好評であった。特に新作「楽しい食卓」は、児童相談所の子供たちをテーマに、作者の温かい心情が柔らかいタッチで描かれており私の好きな作品である。

（川本ヤスヒロ記）2024,9,15

デボア康子回顧展

深川市アートホール東洲館 2024年10月17日～31日

赤い色が目につく。北海道の作家で「赤」を使える人は少ない。デボア康子さんの作品にはその赤が際立つ。それは生まれ育って、育まれた精神性の深い色なのかもしれない。又、モチーフのほとんどが女性。しかもその女性のほとんどが下を向いている。それは思惑？困惑？の表情……。デボアさんが現実をどう観たのか、あるいは直視し得なかったのか……。

飲むほどに酔うほどに饒舌になり、口調が烈しくなっていく彼女。表現の不確かさに対する苛立ちだったのか……。その答えはもう作品からしかわからない。いずれにしても都会的な、洗練された作品。現代、こういう作家が少なくなってきた。
(渡辺貞之記) 2024,10,19



「呼吸II」 2011年

開館 25 周年記念 麓彩会と仲間たち展・第 66 回麓彩会展

小川原脩記念美術館 2024年10月5日～2025年2月2日



重厚な作品が並ぶ第2展示室



多彩な作品の第1展示室

1958年小川原脩、野本醇、穂井田日出磨ら8名によって麓彩会が創設された。「麓彩会」の命名は因藤壽。8月30日、倶知安町公民館にて第1回展が開催された。第3回に坂口清一、第9回展に谷口一芳が加わり、第20、21回には後藤庸也が参加した。発足以来、麓彩会展は高い品格と目的を持ち続け、新たな作家とともに地域の美術を発信する場となっている。(案内パネルより)

全道展創立会員の小川原脩、元事務局長の後藤庸也と次長の谷口一芳の作品に因藤壽。今年相次いで逝去した坂口清一(9月没)と穂井田日出磨(4月没)らの作品が展示された会場。麓彩会展の基盤となる作家たちの作品は見応え十分の第2室の展覧会であった。

一方、第1室では今年、66回を迎えた麓彩会展が開催されており、地元作家ら29名が出品。うち全道展絵画部門からの出品者は6名。羽山雅愉会員の「追想(夜と朝)」・米澤邦子会員の「青い村」、小島英一会員は「B、M、WOMAN」を出品。今回佳作賞を受賞した福田好孝さんの大作に、全道展常連入選者の1人、早瀬文子さん、若い感性の山川由紀子さんの作品が会場を彩る。地域に根差した多彩なジャンルの表現者たちの発表の場として強く印象に残った。

(川本ヤスヒロ記) 2024,10,11

全道展企画展 会友展

ギャラリー大通美術館 2024年11月12日～11月17日

出品者46名(絵画:29点、油絵、テンペラ等)(版画:10点、木版、銅版等)(工芸:2点、漆、吹きガラス)(彫刻:5点、木、鉄、石膏等)

30号以下という出品規定であったが、さすがに会友は次期の会員候補であるだけに、自分の世界観がしっかりと表現されており、会場は緊張感に満ち、見応えがあった。

(梅津薫記) 2024,11,12



2024年の展覧会から

札幌・恵庭・深川・小樽・喜茂別の美術館、ギャラリーから (1月~12月分)

●ギャラリー大通美術館

5月14日~19日 第51回光風会展 ・第78回全道展で入選した田中恵子・本間洋子さんが出品

10月1日~6日 38th GEM 木版画展 ・全道展版画部門の大澤あい子、吉川勝久会員、佐々木千晶、高野裕子、田中文夫会友が出品

11月12日~17日 川本ヤスヒロ展 ・全道展絵画部門川本ヤスヒロ会員の個展

●大丸藤井セントラル

2月6日~11日 ゆきのはな 金沢・札幌交流版画20人展 ・全道展版画部門の志摩利希・中嶋詩子会員が出品

7月9日~14日 第24回三角帽子展 ・全道展絵画部門の伏木田光夫会員をはじめ、第78回全道展で新会員に推荐された豊嶋章子、竹島俊之会友、入選した大森アヤ子、片山美代さんが出品

11月19日~24日 第34回春陽会道作家展(絵画部) ・全道展絵画部門豊嶋章子会員が出品

●さいとう Gallery

10月8日~13日 第26回セピカ展 ・全道展絵画部門の村本千洲子会員、第78回全道展で入選した武田直美、鶴江和子さんが出品

11月26日~12月1日 渡邊雅子油彩・銅版画展 ・第78回全道展版画部門で奨励賞を受賞、油彩、銅版画を出品

11月26日~12月1日 第1回銅版画展 ・全道展版画部門の坂みち代会員、相馬瑞恵会友・南雲久美子会友(南雲さんは絵画部門会友)、第78回全道展版画部門で新会友推薦の久保田道子さん、隣の会場で個展開催の渡邊雅子さんが出品

●道新ギャラリー

2月29日~3月5日 Bois 木版画展(11回展) ・全道展版画部門の重岡静世・中嶋詩子・吉川勝久会員が出品

●ニューオータニイン札幌

2023年12月25日~2024年1月28日 中田やよひ展 一見えるもの見えないもの一

・全道展絵画部門中田やよひ会員の個展

●Gallery Retara

11月15日~18日 トンネルのあっちとこっち「十勝ゆかりのアーティスト12人」

・全道展絵画部門の桔梗智恵美会友と全道展彫刻部門の川橋幸弘会友が出品

●マリヤギャラリー

11月28日~12月3日 「二人のATSUKOの版画展」彼方アツコ・関川敦子“In Harmony”

・全道展版画部門の関川敦子会員が出品

●恵庭市民会館

7月2日~7日 分水嶺 中村哲泰とそのこどもたち ・全道展絵画部門八子直子会員が出品

●アートホール東洲館

7月17日~31日 イコン塾研究発表展

・全道展絵画部門の梅津薫教室の塾生によるテンペラ(古典)技法の作品を展示

全道展絵画部門の西村徳清会員、桔梗智恵美会友、第78回全道展で入選した伊藤紀子さんが出品

7月17日~31日 權2024展

・梅津薫、川本ヤスヒロ、斉藤嗣火、田崎謙一、故・藤井高志、福島孝寿、渡辺貞之会員7名が出品

●市立小樽美術館

6月5日~9日 Wave ウェーブ11人展 ・全道展絵画部門羽山雅愉会員・彫刻部門水野智吉会員が出品

10月19日~12月28日 絵画で見る炭鉄港 伊藤光悦・輪島進一・羽山雅愉 三人展

・全道展絵画部門羽山雅愉、輪島進一会員が出品

●ギャラリー柚人

5月3日~6月3日 松木真知子・田中郁子一2人展 ・全道展絵画部門松木真知子会員が出品

❖❖❖❖❖ 2025年 第79回全道展 ❖❖❖❖❖

会期 6月11日(水)~22日(日)10時~18時

※月曜日休館、最終日16時30分まで

会場 札幌市民ギャラリー

※詳細は出品目録などの資料、
全道展ホームページで確認願います。

全道展情報発信してます

ホームページ



全道展

検索

<http://www.zendouten.jp>



編集後記

第78回全道展と地区展の他に、今年は特に全道展に出品している作家の個展が多かったので積極的に取材しました。作家探訪は、絵画の田崎謙一会員と絵画の岳上恵子新会員にお願いしました。

今年も皆様のご協力をいただきまして本当にありがとうございました。

2024年12月31日
ZEN 編集部 川本ヤスヒロ・梅津薫